



義太夫協会会報
第81号

平成17年7月15日
社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL・FAX (3541) 5471
http://www.gidayu.or.jp

通常総会開催

《会長交替》

新会長挨拶

波多 一 索

初夏の候となりました。
ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度皆様の温かいご推挙によって、義太夫協会・景山正隆会長の後任に私が指名されました。このような名譽ある協会の会長に推挙されましたことは、私にとっては身に余る名譽ではございますが、私が本当に皆様のお役に立つことが出来るかということになりますと内心忸怩たるものがあります。就任のご挨拶からこのような事を申し上げるのはまことに恐縮ですが、会員の皆様のお力添えなくしては到底任務の遂行の出来ないのは確かです。よろしくお引きまわしをお願い申し上げます。私事になりますがビクターレコードに在籍、

ビクター伝統文化振興財団設立にいたる四十余年の間には、本協会の最高顧問の吉川英史先生に公私ともに大変お世話になり、田辺秀雄、景山正隆、竹内道敬、池田弘一の諸先生にはレコードの監修・解説のお仕事でこれまた一方ならずお世話になるなど協会とのご縁も深く、改めて諸先生方が長年にわたり心血を注いでこられた義太夫の保存育成という協会のお仕事に少しでもお役に立てればと身の引き締まる思いであります。
末筆ながら、皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

平成十七年六月十一日、松竹本社第一会議室において、通常総会が行われ、平成十六年度事業報告、決算報告、平成十七年度事業計画、収支予算等に関して、質議された。



新旧会長

会長辞任に当たって

景山 正 隆

私は、今回、任期(四期目)の途中ですが、社団法人義太夫協会三代目会長を辞任させていただくことになりました。就任が平成七年です。丁度十年になります。この十年間、世情の変転には言語に絶するものがありました。私が、わが義太夫協会は、伝統芸能の継承発展のためには厳しい状況に囲まれながらも、会員の皆さんの並々ならぬご協力を得て順調な歩みが続けることが出来、微力ながらも会長としての責務を果たすことが出来ました。ここに改めて、諸役員をはじめ会員の皆さんに深く感謝の意を表したいと思います。
協会には、今後の課題が山積していること、言うまでもありません。演奏活動のより一層の充実化、後継者育成の促進はもとより、普及活動も、教室ばかりでなく、次代を担う青少年に対する普及活動なども考慮されてよいでしょう。また、漸く男子正会員の増加への第一歩が踏み出されましたが、さらに積極的に推進することも今後の課題でしょう。
幸い、波多新会長は、邦楽全般に通暁しておられるばかりでなく、現代の邦楽界の諸事情にも通じておられる適任者です。新会長のもとに、義太夫協会がますますゆるぎない活動を続けて発展することを期待したいと思います。

正会員 TOPICS

初舞台ラッシュ!!

今年に入り、新しい太夫が相次いで誕生しました。

まず2月22日には竹本越道門下の竹本越春さんが「鈴ヶ森」で、同じく越道門下の竹本越華さんが「弁慶上使」で初舞台を踏み、3月24日には「傾城阿波鳴門」で竹本綾之助門下の竹本綾一さんがそれに続きました。両日とも国立演芸場はお祝いムードに溢れ、大変華やかな公演となりました。

越春さんは義太夫教室第53期修了。手先がとても器用で浴衣や舞台で使用する七兵衛(合引)まで自分で作ってしまったそうです。いずれは肩衣や袴も作ってみたいとのこと。近いうちに手作りの衣装での舞台姿が見られるかもしれません。

越華さんは大学を卒業して間もない、まさに若手。学生時代は少林寺拳法に打ち込み、現在もスポーツクラブでインストラクターをしているバリバリの体育会系です。が、ウサギやブタのぬいぐるみなど、丸くてフワフワしたものが大好きという、かわいらしい一面もあるのです。

綾一さんは義太夫教室第55期修了。師匠の名前を継いだ彼女は義太夫と不思議な縁があったのでしょうか、なんと以前、まだ学生だった寛也さんに家庭教師をしてもらっていた

ことがあるそうです。

3人はそれぞれ1年間の見習期間を経て晴れて正会員となったわけですが、見習中も上野広小路亭の公演では開演前の御簾内での演奏を交替で勤めていました。現在は主に、上野広小路亭で奇数月の1日、2日に行われる「じょぎ」に出演しており、7月は越春さんが「鈴ヶ森」、越華さんと綾一さんがそれぞれ「木遣音頭」を語りました。また、8月30日に国立演芸場で行われる若手勉強会には揃って出演する予定です。

3人の義太夫人生はまだ始まったばかり、末長く御声援のほどよろしくお願い致します。



「よろしく願います!」
左から越華・越春・綾一

文化庁国内研修を受けて

鶴澤 駒清

昨年6月から今年3月までの10ヶ月間、平成16年度新進芸術家国内研修制度を利用し、「義太夫節における楽器の演奏技法の習得と実技発表」を目的とした研修を行いました。

義太夫節の演奏法について、文楽の豊竹嶋大夫師匠、野澤喜左衛門師匠、鶴澤清介師匠にご教授いただき、琴・胡弓について豊澤幸治先生に手ほどきを受け、研修発表会と題し、2ヶ月に一度、計5回行った実技発表では、竹本駒之助師匠をはじめ綾之助、土佐恵、土佐子各先輩方に語っていただき、また稽古を通じてご指導いただきました。

三味線の研修演目は、草履打ちの段、組討の段、新口村の段、万歳、熊谷桜の段で、稽古を通しては、運びの難しさ、語りを展開させる為の一音の大切さを強く感じ、また、様々なことを表現するためには、物語や浄瑠璃をより深く理解しなければならぬことを実感いたしました。

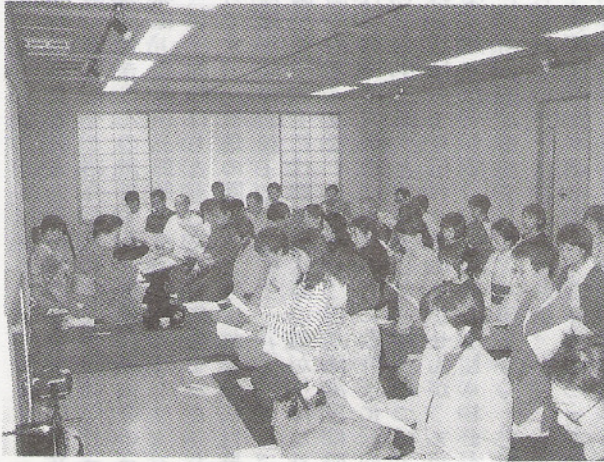
琴・胡弓に関してはこの研修で初めて本格的に取り組み、実技発表の舞台では、宿屋の段の琴唄、中将姫・関取千両唄・阿古屋で使われる胡弓を勉強させていただきました。

本当に多くの貴重な経験をさせていただき、お世話になりました御師匠様方、お客様方に心から感謝いたします。この研修で得たことを生かしながら、心に訴える義太夫を目指して今後も頑張りたいと思います。

一日体験教室開催さる!

駒之助師匠、講師に―

去る4月23日(土)、人形町スタジオにて、恒例の一日体験教室が開かれました。三味線二回、語り一回の三部構成で、延べ74名の参加者がありました。



講師(敬称略)

三味線 駒之助
語り 駒治
三味線 寛也

「一日体験教室」は、昭和六十三年から開かれ、昨今はやり?のワークショップの先駆けの感がありますが、元々「教師のための義太夫教室」から発展した企画で、講義だけでなく実際に三味線を弾いてみたいという先生方のご要望に応えたのが最初のようにです。

現在は、いわゆる老若男女を問わず、一般の方向けに、ご案内させて頂いています。今回も、高校生からご年配の方までご参加を頂きましたが、特筆すべき点は、協会のホームページを見て応募した方が多かった事です。74名中26名もいらっしやいました。

一見、義太夫とは縁が薄い様なインターネットが、義太夫の普及にも一役かかっているとは...二十一世紀ならでは、ですね。

*
語りのコースは、久々に駒之助師匠のご登場とあってか、早くから応募が殺到し、当日も会場は、開始前からやる気満々の生徒さんの熱気に溢れていました。

今回の教材は、「三十三間堂棟木由来」木遣音頭の段。まず、声を出す前に正しい姿勢が大切という事で、座り方の講義から授業は始まりました。次の「本読み」では、詞章を見ながら「はや、しのめの」と師匠に続き、素読に挑戦。「もやうと読まないで、つぶだつて読みましょう」「口を大きく開けてノ」「下を向かないで、むこうへ聞こえる様にノ」と、いろいろとご注意を受け、いよいよ三味線と一緒に語る事に―初めは控え目に声を出していた生徒さんも、師匠につら

れてだんだんと大きな声となり、師匠も満足の様子でした。

息の吸い方、浄瑠璃と三味線の間合いの仕組みなど、義太夫の語りの基本についての説明を受け、何度も大声で反復練習をしている内に、あつという間に二時間がたってしまった感じでした。

最後の質問コーナーでは、次から次へと手があがり、時間を延長して、師匠も皆さんの熱意に応じていました。皆大満足で、和やかな内に、閉講となりました。

*
アンケートより一部抜粋

○聞くのと語るのは違って、まずイントネーションが大変でした。息つぎの具合がわからず、酸欠になりそうでした。

○先生の、思わず引き込まれてしまうお話しりとわかりやすくも厳しいご指導で、あつという間の二時間でした。お腹から声を出すのは本当に気分の良いものですね。

○三味線と義太夫のかけあいの仕方がよくわかって面白かった。

○やはり正座が痛かった。久々に声を出して汗をかいた。駒之助先生の語りをま近に聞いて幸せでした。

○短い時間でしたが、とても楽しい体験でした。声が高かったり急に下がったりと不思議な音で、とても気持ち良かったです。



Ⅱ特集Ⅱ協会のお宝・その三

『豊澤伊三郎師のノート』



今回は女流義太夫三味線の名手、豊澤猿幸師の学習帳をご紹介します。今回は同じ三味線弾きさんの譜ですが、歌舞伎義太夫の三味線、豊澤伊三郎師のものです。

伊三郎師はもともと文楽で修業をなさった方です。「植畑の團平」と呼ばれた三代目豊澤團平師のお弟子で、「團伊三(だんいさ)」。師没後、名手初代鶴澤道八師の預かりになり、師の前名「友松」を名乗り、道八師没後は四代目鶴澤清六師の門人。のちに歌舞伎に転向し、「伊三郎」となりました。舞台についてのお話はあまり伝わっておりませんが、まめな方だったそうで、「ハイ！よろしゅおます」といろいろな周旋をして、「伊三やん」と親しまれていたとは昔の方のお話。

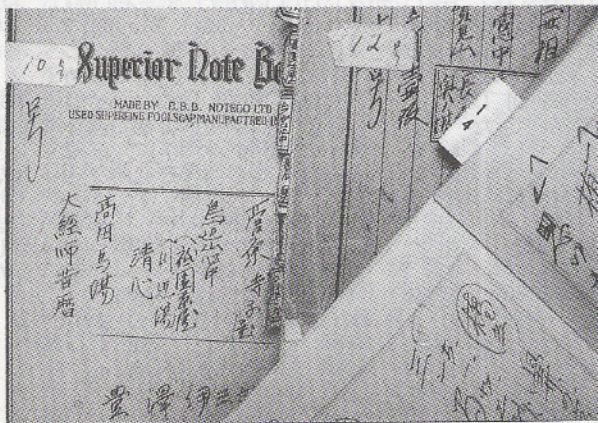
歌舞伎の竹本連中に入ってから、「すんまへん、ちょっとご本を拝借！」と毎月毎月の出し物をノートに筆記し、多数の朱(譜)を遺されました。そのノート群が義太夫協会の収蔵庫に納まっています。「朱はその演目を舞台で勤めるなり、稽古してなり、初めて価値が出る」と古来いわれておりますが、伊三郎師の場合、ともかく「写す」ことに積極的で、切場はともかく端場にいたるまで克明に書き留められました。当時録音機器は高価

でしたから、端場などの録音は省略されるのが普通で、久しぶりに上演される演目で録音資料がない場合、伊三郎師のノートによってこれを補うことができます。

現在、竹本の先人の譜本は、松竹大谷図書館に数名の方のものが寄贈されています。太夫は鏡太夫・扇太夫・雛太夫・米太夫・寿太夫・和佐太夫；、三味線は瑩緑といった師匠方いづれも第一線で切場を勤められた方々のもの。しかし、伊三郎師の端場やツレの譜も欠かせないもので、珍しい演目の本が見つからないときは、「伊三郎さんのも調べてみた？」という会話が出来ます。

『協会のお宝』と題し、三回にわたり床本や章本をご紹介します。美術的価値のある工芸品の見台などと違い、一般の方にはただの古本・古ノートですが、必要とされる向きにはお金に換えがたい価値があります。文楽の六代目鶴澤寛治師は、お若いころ東京在住の豊澤松太郎師によく稽古を受け、没後も必要があると、ご子息の二代目さんから先代のご本を借りていらしたそうです。あるとき二代目が、初代のご本を寛治師の宿舎まで届けなさいと、ご子息の義三郎師に言いつけました。義三郎師が宿舎を訪ねて部屋へ通り、「父から預かってまいりました」とその本を差し出すと、寛治師が「はっ、ははぁー」と座布団から降りて風呂敷包みを押し戴かれたそうです。単なる資料ではなく、ゆかりの方の魂も籠められているという思いが、こうした態度に偲ばれます。

一部正会員にしか使い途がない資料ですが、あえて「お宝」と呼ばせていただき、先人の遺芳を偲ばせていただきました。



珍しい演目も多数

資料部よりお願い

資料部では寄贈テープ・書籍等の整備補修を行っておりますが、長期間にわたり未返却の資料が多々見受けられます。本当に必要なとされる方が、大変困惑しております。ご多忙の為失念かと存じますが、正会員の誰もが気持ち良く資料室を利用できますよう皆様のご協力をお願い致します。

お役立ち情報

願掛け、厄払い など

暑中お見舞い申し上げます。

この暑さや湿気、日本らしいといえはらしいのですが、そのために身体がだるくなったり、仕事がなかなか思うようにはかどらなかつたり……。

原因が自分自身にあるばかりでなく、どうも周囲の状況が良くない、そして世の中を見ていると、どうもツイている人とツイていない人がいる……そんなことを考えたことはないでしょうか。

そんな時には、いっそのこと身体や精神をリセットして、また一からやり直してみようと思うのはどうでしょうか。

と、そうは言っても、なかなか自分一人でリセットするのは難しいもの。そこで登場するのが、厄払い、そして願掛けです。つまり我々が普段年末から新年にかけて行っているアレです。今は新年ではありませんが、プチ新年のような気持ちで、自分をリセットしてみたいかがでしょうか。

厄には二種類、自分自身の精神から生み出してしまふ厄と、周囲から与えられてしまふ厄と、大きく二種類あるそうです。ですからまず、自分が生みだしてしまふ厄は少しでも

少なくするよう心がけることが大事です。つい愚痴を言ったり、文句を言ったりしたくないのは、よくあることです。それは自ら厄を生んでしまいます。それを我慢するとストレスになる場合、発想の転換をして、それをどう解決したらよいかを考える、というように前向きに志向することが大切です。

愚痴や文句の多い人の周りの空気は、どうしても淀んでしまっていますから、そっとその場から離れる、というのも大きな厄除けです。

でも、自分の力ではどうにもならなくなつた場合、どうしたらよいでしょうか。

※髪を切る

女性が失恋したら髪を切る、というのを聞いたことがあると思います。彼との思い出に別れを告げ、新たな自分として人生を歩もう、という前向きな姿勢の表れですが、これは何も恋愛でなくとも良いそうです。

髪には念や厄などが付きやすいので、それを切つてさっぱりさせることは、厄落としになるのです。

※家に帰る

これは当たり前のことですが、ここでも厄落しです。玄関というのは、外から持ち帰つて来た厄を落とす場所です。靴を脱ぐというのも、家の中に傘を持ち込まないというのも、湯船につかって入浴するというのも、全て我が昔からやって来たことですが、結果として、それは厄を落していたのです。

そして心を新たににして、今度は願掛けをししてみよう。

願掛け、といってよいかどうか分かりませんが、正会員の場合、最も身につまされるのは舞台前です。たとえば野球の試合などで奇跡と思われることが起きて、球場には野球の神様がいるなどと言われますが、舞台でも何が起るかと思うと緊張してしまいます。

舞台上がるに当たって、特別に願掛けのようなことはしているのでしょうか？ここで両副会長にインタビューを試みました。(敬称略)

「そうですね、まず山台に上がる前に、舞台を無事に済ませることが出来ますよう、恩師にお守り頂けるようにと拝みます。そして舞台で本をいただく時にも、お守り下さいとお願ひ致します。(朝重)」

なるほど。では、舞台前にどうしても緊張してしまつた場合はどうなのでしょう。

「よく世間では手の平に、人、と三回書いて飲み込むと緊張しない、などと言いますが、やることもありますけれど、果たして効果がありますかどうか(笑)。特別なことは何もしておりませんよ。(駒之助)」

その他にも、舞台前にトン、と他人に背中を叩いてもらつたり、など皆様いろいろなことをしておられます。これも自分を清め、新しく気合いを入れ直しているということなのでしょう。

協会の動き
05年1月より
05年6月まで

- 1月1日 会報第80号発行
- 1月8日 「ぎだゆう座」スペシャル公演
於お江戸両国亭
- 1月11日 普及部会
於協会資料室
- 1月19日 女流義太夫演奏会「壺坂」他
於国立演芸場
- 1月27日 編集会議
於協会資料室
- 1月30日 乙女文案公演出演
於茅ヶ崎市民文化会館
- 2月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭
- 2月4日 公演部会
於ロイヤルパークホテル
- 2月22日 女流義太夫演奏会 伝承者研修発表会「寺子屋の段」他
於国立演芸場
- 2月28日 義太夫教室OB演奏会
於東京証券会館ホール
- 3月1日・2日 「じよぎ」公演二日間
於上野広小路亭
- 3月2日 常務理事会・理事会
於松竹本社第2会議室
- 3月3日 都民のための邦楽演奏会
於国立小劇場
- 3月8日 芸団協功労者賞授賞式
於東京會館

- 3月17日 事務局長会議 於芸団協会議室
- 3月19日 第57期義太夫教室閉講
於豊川稲荷文化会館
- 3月22日 芸団協総会 於オペラシティ会議室
- 3月22日 女流義太夫演奏会「道行初音の旅」
於国立演芸場
- 4月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於上野広小路亭
- 4月23日 1日体験教室 於人形町スタジオ
- 4月26日 女流義太夫演奏会「すしやの段」
於国立演芸場
- 5月1日・2日 「じよぎ」公演 二日間
於上野広小路亭
- 5月11日 編集会議 於協会資料室
- 5月25日 女流義太夫演奏会「猪名川内の段」
於国立演芸場
- 5月26日 常務理事会・理事会
於松竹本社第2会議室
- 6月1・2日 「ぎだゆう座」二日間
於人形町スタジオ
- 6月11日 平成17年度総会
於上野広小路亭
- 6月28日 女流義太夫演奏会「飯原館の段」
於国立演芸場
- 7月1日・2日 「じよぎ」公演 二日間
於上野広小路亭
- 7月15日 会報第81号発行

《今後の予定》

- 1日体験教室 8月20日(土) 人形町スタジオ
- 祖 先 祭 10月8日(土) 回 向 院
- 竹本朝重りさいたる 10月16日(日) 国立演芸場
- 駒之助の会 10月22日(土) 紀尾井小ホール
- 巴 の 会 12月10日(土) 江戸深川資料館小劇場

《訃 報》

豊澤 住造
(正会員・義太夫節保存会会員)
平成十七年五月九日 八十六歳

【編集後記】

- ……あーあ。(T)
- 楽しい編集会議でしたが…(T?)
- 編集会議のおともは麻布十番のためき煎餅でした。大狸、小狸、古狸、ごま狸、あなたは何狸? (K?)
- 編集部に入部して一年過ちました。ようやく作業にも慣れてきたのに。(K3)
- いつも、編集長にオンブにだっこ…反省しています。(Y)
- セバ交流戦に目茶強い横浜、いっそパ・リーグに入ったら? (S)

